

第2章 南九州市の概要

2-1. 自然的・地理的環境

2-1-1. 南九州市の位置・面積

平成 19 (2007) 年 12 月 1 日、^{えいちよう} 頴娃町・^{ちらんちよう} 知覧町・^{かわなべちよう} 川辺町の 3 町が合併し、新市「^{みなみきゅうしゅうし} 南九州市」が誕生しました。本計画では、^{えいちよう} 頴娃・^{ちらんちよう} 知覧・^{かわなべちよう} 川辺の旧 3 町を基礎的な単位としています。

南九州市（以下、「本市」）は、^{かごしまけん} 鹿児島県の南西部、薩摩半島の南部に位置し、県庁所在地・^{かごしまし} 鹿児島市の南西約 30km に位置しています。北は^{かごしまし} 鹿児島市、南は広大な東シナ海を臨み、東は^{いぶすきし} 指宿市、西は^{まくらぎし} 枕崎市・^{みなみ} 南さつま市に接しています。

地勢は、北部から南東部にかけて標高 500m を超す山々が連なり、中部には緩やかな丘陵台地が広がり、南部は東シナ海に面した海岸線となっています。市域は、東西に約 22km、南北に約 30km、総面積は 357.91km²で、鹿児島県全体の約 4.0% を占めています。

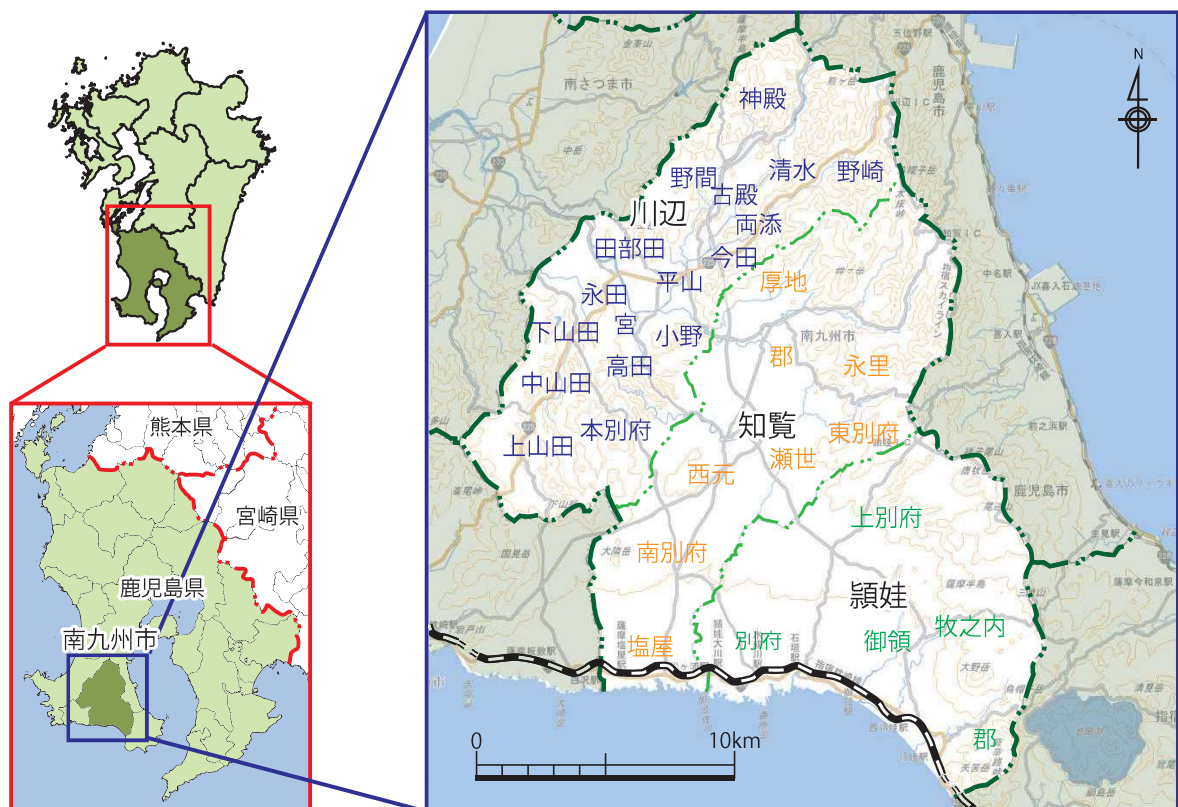


図 2-1 南九州市の位置及び大字名（国土地理院地図に加筆）

大字名は江戸時代の村名に由来します。

2-1-2. 気候

本市は北部の山間部と中部台地、及び南部海岸線を有した平坦地と三つに大別されるため、地域や年度によって若干の相違はありますが、年間平均気温は約 17℃ と比較的温暖です。年間降水量は平均 2,350mm で、4 月から 9 月には月 200mm を超え、しばしば台風による大雨に見舞われます。

初霜は 11 月中旬頃で 3 月中旬頃に終わりますが、中部台地の横尾峠付近より以北では晩霜が強く、また冬季の気圧配置によっては寒波により山沿いを中心に平地でも積雪があり、農作物に大きな被害を与える事もあります。

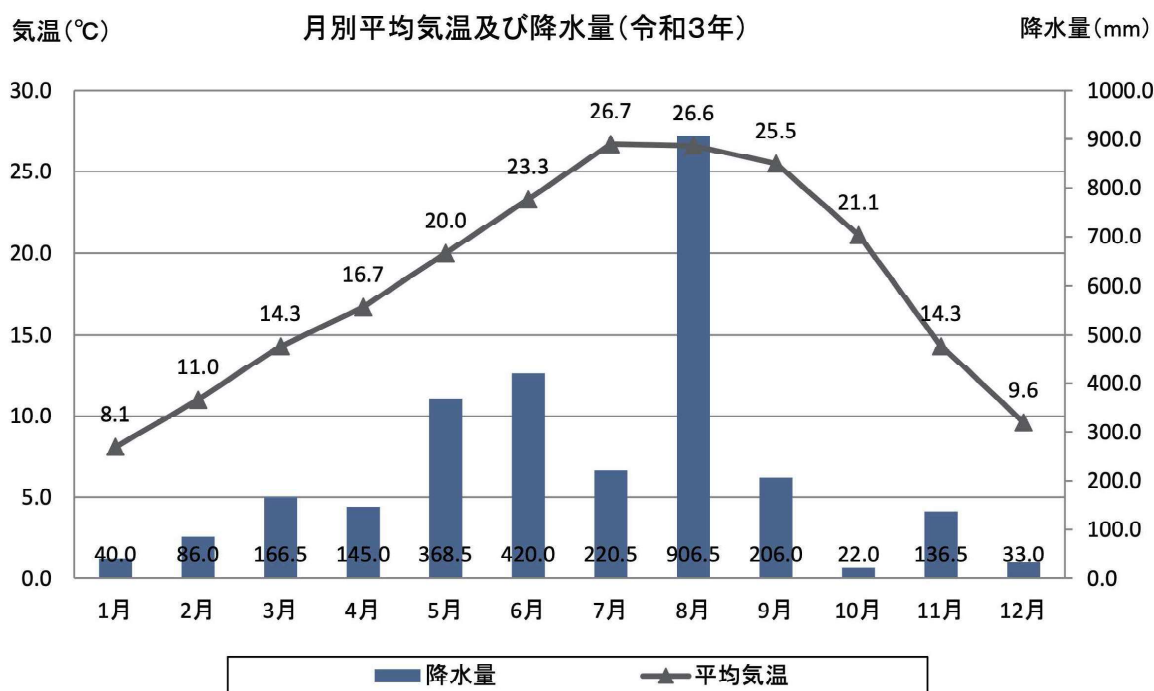


図 2-2 年間降水量・気温表グラフ

2-1-3. 水系

二級河川万之瀬川水系の本流及びその水系は、川辺地域及び知覧地域北部から西隣の南さつま市を経由して東シナ海へ注いでいます。主な河川は本流である万之瀬川（清水川・広瀬川）、支流の神殿川・大谷川・麓川・永里川・厚地川等です。

一方、知覧町南部を流れる加治佐川や頼娃地域の馬渡川、石垣川は大地を深く開析しつつ東シナ海へ南流し、河口部は港湾として利用されてきました。

川辺地域はシラス台地直下からの湧水に恵まれ、名水百選に選ばれた「清水の湧水」の他「清魂水」（清水）、「命水」（高田）等市内外に知られた名水があります。

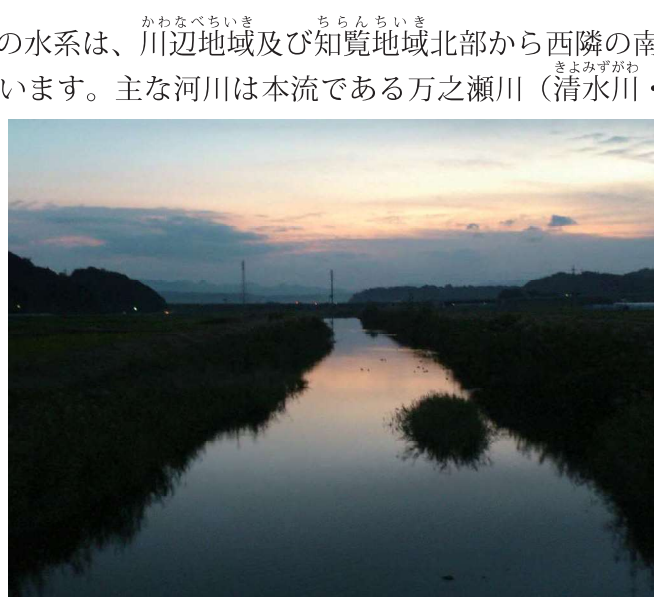


写真 2-1 万之瀬川



火山性堆積物が削られて形成された溪谷には、「八瀬尾の滝」(市指定名勝)、「天神の滝」、
「潮鶴の滝」等の滝や、「蟹ヶ地獄」(市指定天然記念物)等の鰍穴群が各地にみられます。

市中央部から南部にかけての南薩台地は、その地質・地形から水の確保のために努力が
重ねられ、近世以来ため池の築堤や用水路の開削等が行われ、田畑の開拓が行われてきま
した。一方、水の豊かな川辺地域では、近代まで河川の氾濫により、度々甚大な被害に遭っ
ていた事が記録されています。

2-1-4. 海岸線

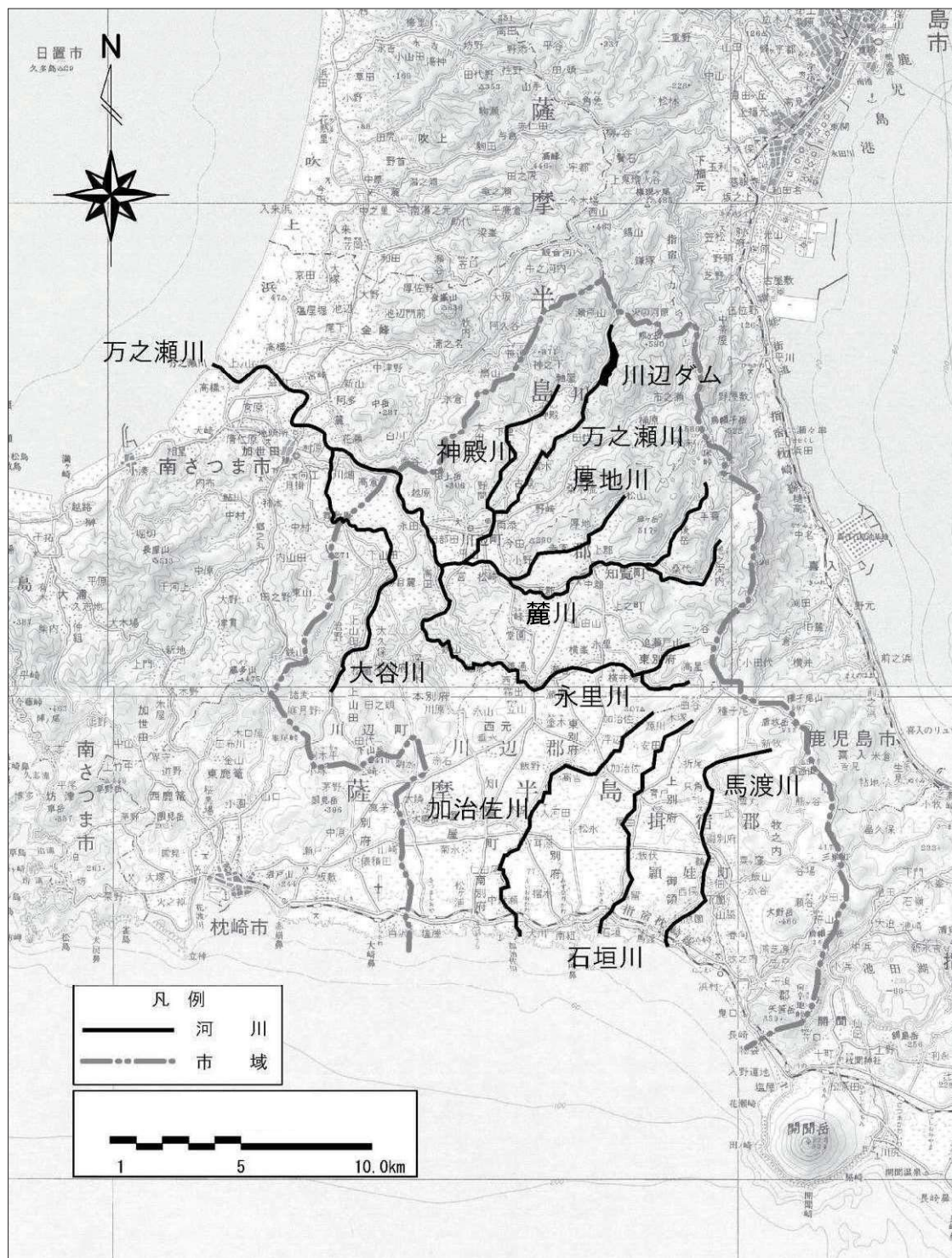


図2-3 南九州市の主要な河川位置(南九州市作成)



本市南部の海岸線は、東シナ海に面しています。顚娃地域の東側は砂浜が多く、矢越浜^{やごしはま}では製鉄の原料としての砂鉄が産出されていました。知覧地域の砂浜はアカウミガメの産卵地として知られ、保護活動が行われています。防潮林として植林されたクロマツ群落は、マツクイムシの食害により減少しているものの、海岸から東に見える開聞岳^{かいもんだけ}とともに、海岸の景観を形成する要因の一つとして保護されています。

顚娃地域西部から知覧地域の海岸線は、阿多火砕流堆積物^{あたかさいりゅうたいせきぶつ}の特徴的な地形で、侵食によって陥没してできた「環状プール群」がみられます。顚娃地域では、遣唐使船が漂着したと伝わる石垣や大川、知覧地域では海運商人として著名な仲覚兵衛^{なかかくべえ}等が拠点とした門之浦^{かどのうら}や松ヶ浦^{まつがうら}、聖ヶ浦^{せいがうら}、東塩屋浦^{ひがしおやうら}（相之浦^{あいのうら}）、西塩屋浦^{にしおやうら}（永沢浦^{ながさわうら}）等の「浦町^{うらまち}」が河口付近の港周辺に形成され、交易拠点や漁港として活用されていました。

指宿市との境の瀬平公園^{せびらこうえん}周辺は、遠くに開聞岳を望み、松林と砂浜、巨岩・奇岩が織りなす風景を楽しむことができます。矢越浜では、戦後まで砂鉄の産地として知られており、知覧・川辺の製鉄集落へ搬出されていました。

「番所鼻自然公園^{ばんどころばなしぜんこうえん}の溶結凝灰岩^{ようけつぎょうかいがん}の環状プール群」（県指定名勝・天然記念物）及び水成川^{すいせいせん}河口^{がくわ}周辺は、能因法師^{のういんほうし}の歌枕^{うたのまくら}や伊能忠敬^{いのうただたか}の称賛で知られる景勝の地です。近年は官民一体となって整備が行われるとともに、地元のNPO法人によるイベント開催等によって、鹿児島県を代表する観光地として定着しつつあります。

なお、これらを含む枕崎市に至る海岸線は、令和3（2021）年4月16日に「薩南海岸県立自然公園^{さつなんかいがんけんりつしぜんこうえん}」に指定され、今後の活用が期待されています。



写真2-2 番所鼻自然公園（開聞岳）

2-1-5. 地形

本市の北東部、鹿児島市及び指宿市との市境付近に山岳が群立しています。これらの連山は、揖宿山地と川辺郡中央山麓の余脈との連続によるものです。川辺地域では、北部に熊ヶ岳^{くまがたけ}（589.7m）、鎌塚山^{かまつかやま}（586.3m）、瀬戸山岳^{せとやまだけ}（532.6m）、南部の枕崎市・知覧地域との境に下山岳^{さげやまだけ}（415.8m）、新地山^{しんちやま}（404m）等がある、その間に台地と沖積平野が連続し、シラス台地の侵食によって形成された溪谷や、川底の溶結凝灰岩^{ようけつぎょうかいがん}が水流によって削られてできた甌穴^{おうけつ}（ポットホール）群が見られます。知覧地域では、白岳^{しらたけ}（596m）を起点とし、南西に中岳^{なかだけ}と志那志岳^{しなしだけ}、南に荒岳^{あらたけ}、牧神岡^{まきがみおか}、平山へと連なっています。ごおりちく^{ごおりちく}はほがたけ^{はほがたけ}郡地区の母ヶ岳^{ちらんふもとていえん}（517m）は、知覧麓庭園（国指定名勝）の借景にとり込まれている優美な山容を持ちます。南部の大隣岳^{おとなりだけ}は海拔267.2mですが、周囲に大きな山がないため、南部地域のシンボルとして親しまれています。中央部から南部にかけて台地となっており、現在は茶やサツマ

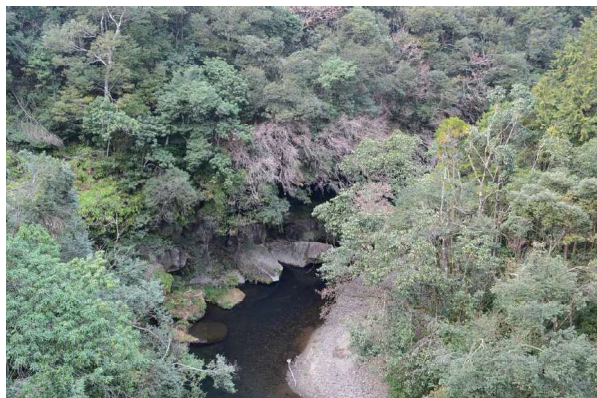


写真2-3 市崎野溪谷



イモの畑が広がっています。

南薩火山群の主峰は^{なんさつかざんぐん} 南薩火砕流の主峰は^{せんがんびら} 額娃地域と指宿市の境にあり、俗に「千貫平」と呼ばれる^{おもぐりやま} 尾巡山 (577.1m) で、他にトロイデ型火山の大野岳 (465.9m)、急峻な山容が印象的な矢筈岳 (358.8m) があります。東側は山がちで深い渓谷もありますが、西の知覧地域へ近づくにつれ、標高はなだらかに低下しています。

なお、隣接する自治体の山岳として、指宿市の開聞岳は^{きんぼうざん} 額娃・知覧地域から、南さつま市の金峰山は川辺地域から望む事ができ、景観の一部として親しまれています。

2-1-6. 地質

沿岸低地の地層は更新世の火砕^{とりはまかさいりゅう} 流の堆積層で、下部は^{やごしかいがん} 鳥浜火砕流の火砕流堆積物で、^{すずめがはま} 額娃の矢越海岸や^{はしよくがい} 雀ヶ浜では波食崖となって露出しています。

本市の中央部から南部にかけての南薩台地は、^{しまんとそう} 四万十層や第三期安山岩類を基盤に、阿多火砕流を主体とした溶結凝灰岩によって形成されています。^{さくらしま} 桜島・^{きかい} 鬼界カルデラ・^{いけだこ} 池田湖カルデラ・開聞岳の火山活動により、火山灰や火山礫が堆積し、台地を覆っています。これらの台地は透水性がなく、植物の発育を阻害する「コラ層」でした。そのため、土地改良を昭和 27 (1952) 年度から進め、1407ha のコラ排除事業を行いました。現在は、南九州市の主たる農産物である茶・サツマイモの畑が広がっています。

2-1-7. 自然・観光資源

本市は自然資源に恵まれ、地区ごとに独特の景観を保持しています。

川辺地区は、古くから水に恵まれ、湧水が有名です。^{しのいてようすい} 疏水百選「篠井手用水」、水の郷百選「心安らぐ清水の里」、名水百選「清水の湧水」等選ばれています。

また星の観察に適した場所であるとして、環境省が昭和 63 (1988) 年から平成 24 (2012) 年まで毎年夏と冬に実施していた「全国星空継続観察」事業において、星の観察に適した場所として選出され、その中から「星空日本一」にも選ばれました。

知覧地区は、^{ちらんじょう} 知覧城とその麓の武家屋



図 2-4 主要な山岳位置 (国土地理院地図に加筆)

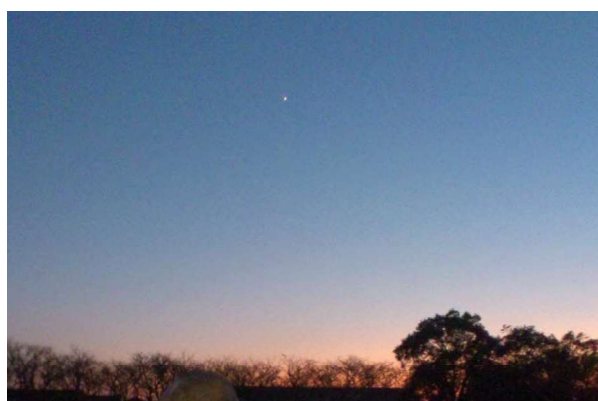


写真 2-4 星空



敷群が著名であり、日本の道百選に「武家屋敷通り」、日本の庭園百選に「知覧麓庭園」、美しい日本の歴史的風土百選に「知覧島津家の武家屋敷群」、都市景観百選に「上郡地区」、日本名城百選に「知覧城跡」が選ばれています。

額娃地区には、大野岳・開聞岳を背景とする景観の良い棚田が残されており、平成 11 (1999) 年 7 月に、農林水産省が棚田の保全活動推進の一環として認定した「日本の棚田百選」に、「佃の棚田」が選ばれました。「日本の棚田百選」としては最南端に位置する棚田です。

南九州市全域に係るものとしては、環境省が生物多様性の観点から重要な湿地を保全する事を目的に選定した「多様性の観点から重要度の高い湿地（略称「重要湿地」）500」として、「薩摩半島のカワゴケソウ類およびオキチモズクの生育地」が選ばれました。

その他、地元に密着した郊外的な雰囲気を持つ魅力あるローカル線をセレクトしたローカル線百選に、「JR 指宿枕崎線」が選ばれています。



図2-5 南九州市の自然と風景（国土地理院地図に加筆）



2-2. 社会的環境

2-2-1. 自治体史

本市は、揖宿郡^{いぶすきぐん}額娃町、旧川辺郡知覧町及び川辺町が合併し誕生しました。

旧額娃町は、明治時代の^{えいそん}額娃村が昭和25(1950)年に町制を施行し、翌年に額娃町と開聞町に分村しました。なお開聞町は現在指宿市となっています。旧知覧町は、知覧村から昭和7(1932)年に町制を施行しました。旧川辺町は、旧川辺村から大正12(1923)年に町制を施行し、昭和31(1956)年に^{かつめむら}勝目村と合併しました。

平成19(2007)年12月1日にこれら3つの町が合併し、南九州市が誕生しました。市役所は、知覧本庁舎と額娃支所・川辺支所の分庁方式がとられています。

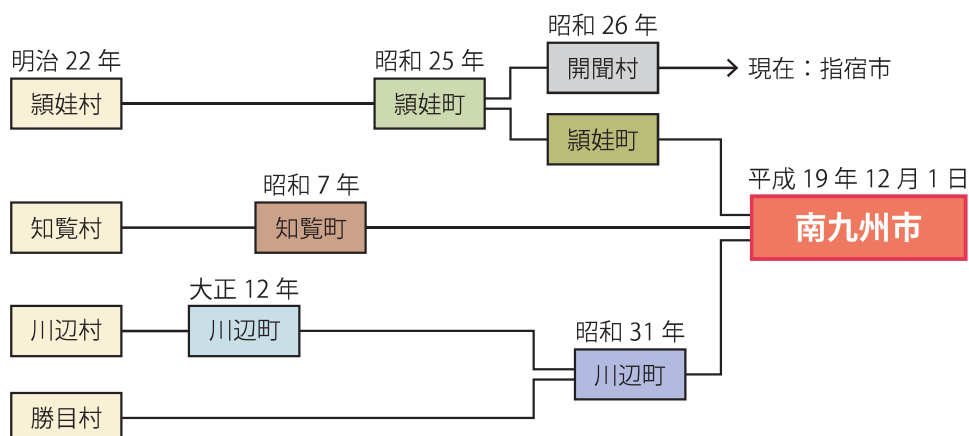


図2-6 自治体変遷

2-2-2. 人口特性

令和2(2020)年国勢調査によると、本市の総人口は33,080人で、減少傾向となっている一方、高齢化率は40.1%となっており、上昇傾向にあります。

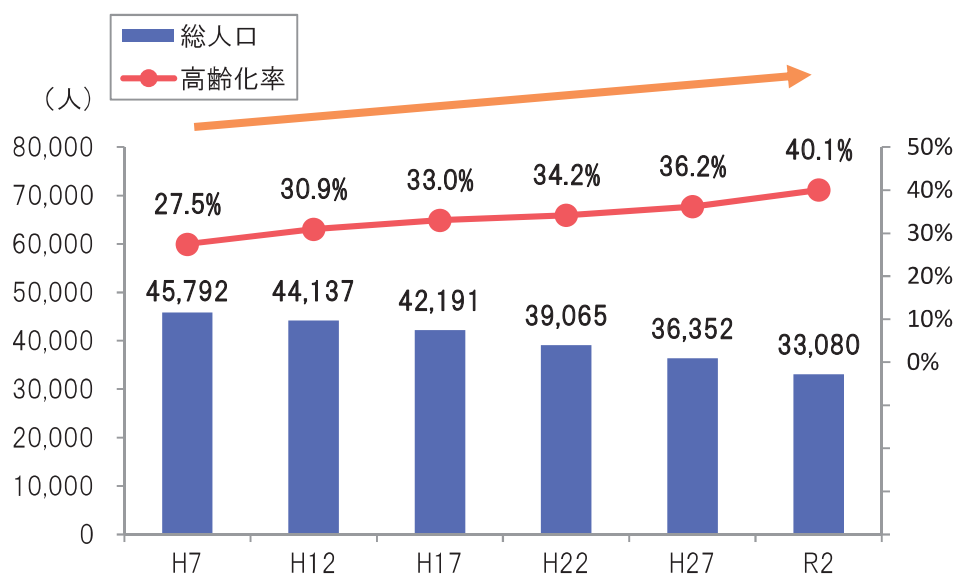


図2-7 市の人口と高齢化率の推移 (資料：国勢調査)

※平成7～12(1995～2000)年 総人口：旧額娃町・旧知覧町・旧川辺町の総人口合計値

平成7～12(1995～2000)年 高齢化率：旧額娃町・旧知覧町・旧川辺町の高齢化率

(「南九州市地域公共交通計画」より引用)



総人口は、川辺地域・知覧地域の中心部及び国道 225 号線沿いに集中しています。

また、^{えい えき} 頤娃地域では鉄道（J R 指宿枕崎線）沿線にも多く分布しており、特に「^{にし えい えき} 西頤娃駅」「^{いしかき えき} 石垣駅」「^{えい おおかわえき} 頤娃大川駅」の周辺では、人口 500 人以上のエリアも見られます。

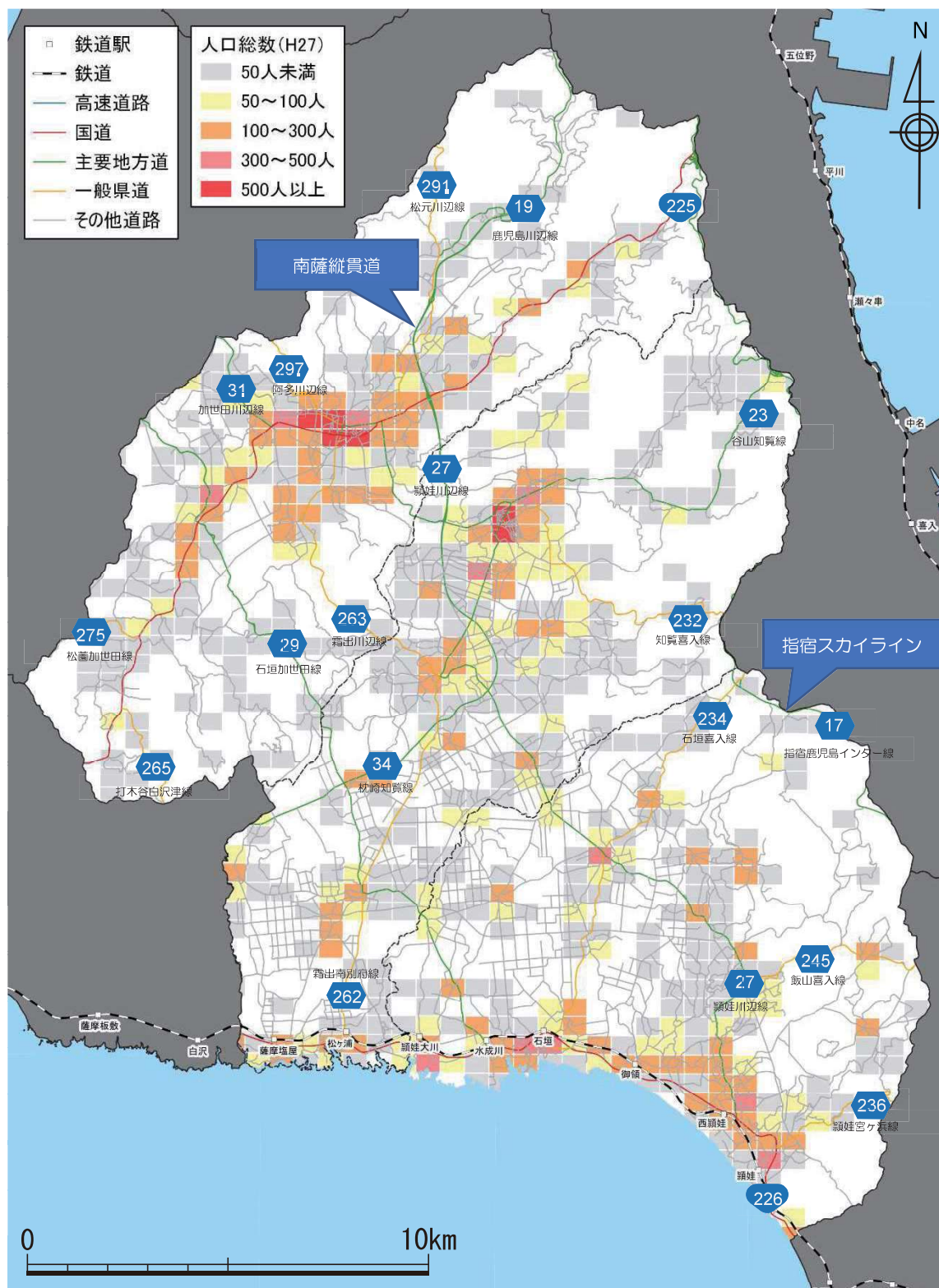


図 2-8 南九州市の人口分布（資料：平成 27 年国勢調査）
（「南九州市地域公共交通計画」より引用、一部加筆）



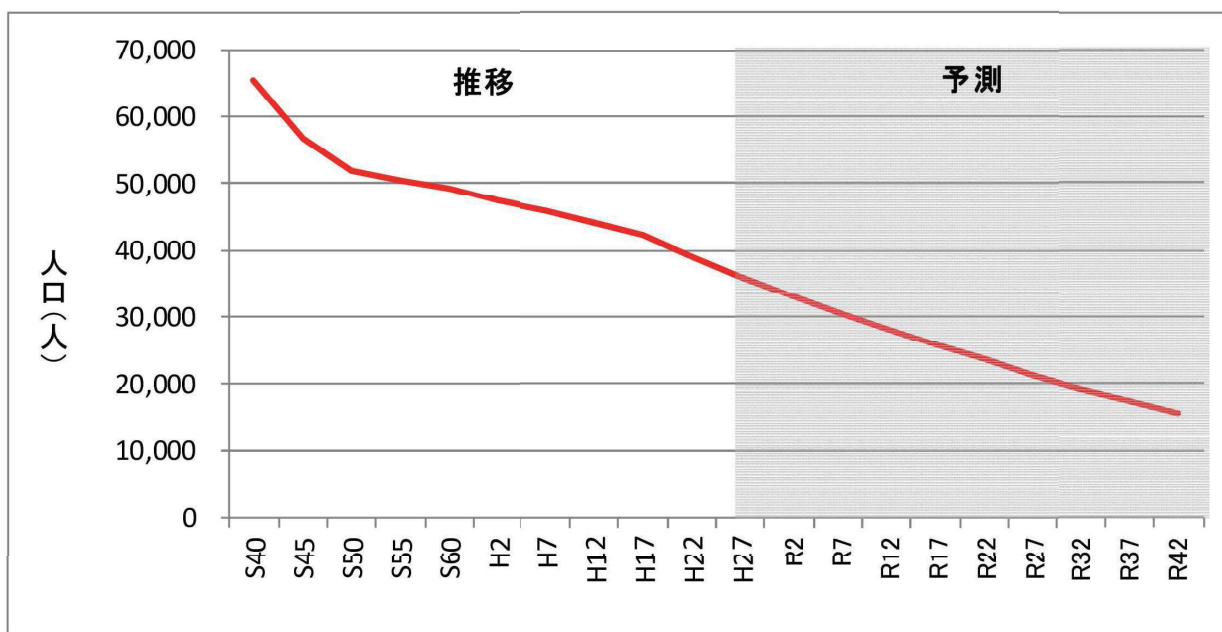
南九州市の人口は、これまで減少傾向が続いてきました。主な要因として若い世代が鹿児島市を主な転出先とする人口流出が考えられます。若い世代の流出は、現在の人口減少の影響だけにとどまらず、出生数の減少により、将来の人口に影響をあたえる事につながります。

南九州市の総人口は、昭和 60（1985）年には 50,000 人を割り込み、平成 22（2010）年の総人口は 39,065 人となりました。平成 28 年に作成した『南九州市人口ビジョン』では、令和 12（2030）年には 30,000 人、同 32（2050）年には 20,000 人をそれぞれ割り込み、同 42（2060）年には現在の人口の半分以下の 15,687 人まで減少すると推定されています。

地域ごとに見ていくと、昭和 40（1965）年の時点では、人口の多い順に顓娃町・川辺町・知覧町となっていたましたが、同 45（1970）年に川辺町が顓娃町を逆転して以降、川辺町・顓娃町・知覧町の順となっています。

ただ、人口は減少が続いており、平成 22（2010）・27（2015）年の地域（地区・校区）別人口を比較すると、全ての地域（地区・校区）で減少しています。

南九州市全体と同様の人口動態を示した場合の将来推計によると、3 町の人口差は徐々に小さくなり、令和 42（2060）年には、3 町でそれぞれ 5,000 人程度となると推計されています。



	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22
総人口(人)の推移	65,398	56,744	51,768	50,261	49,189	47,498	45,792	44,137	42,191	39,065

	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
総人口(人)の予測	36,082	33,318	30,653	28,185	25,898	23,669	21,427	19,306	17,393	15,687

※「国勢調査」「将来推計用ワークシート」より作成

図2-9 総人口の推移と予測（『南九州市人口ビジョン』より引用、一部修正）



2-2-3. 教育施設

教育施設の立地状況をみると、中学校や高等学校は国県道沿線に立地しています。穎娃庁舎の最寄り駅となるＪＲ西穎娃駅周辺には、高校が立地しています。

小学校は国県道沿線のみならず、そこから奥まった市道に立地しています。

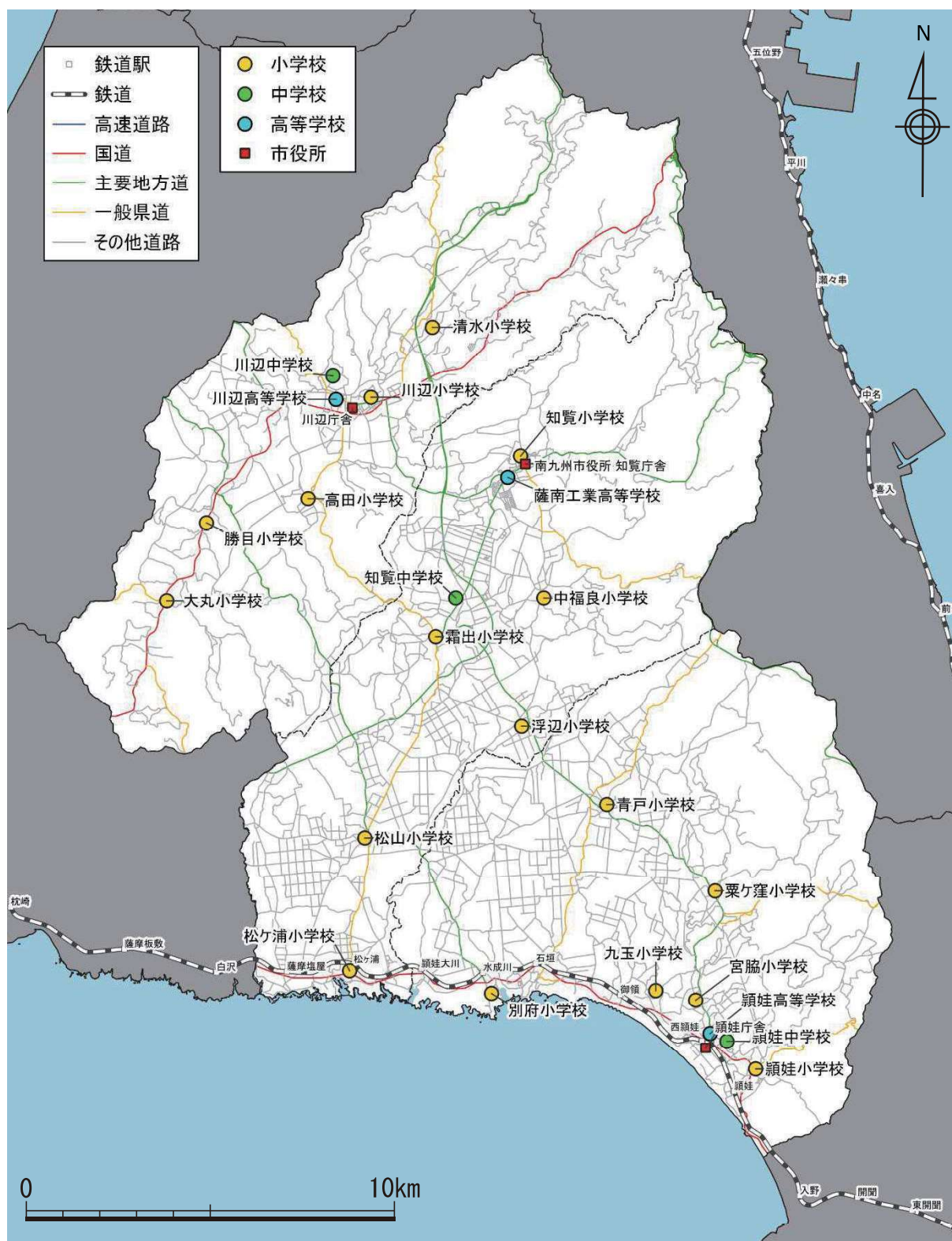


図2-10 教育施設の分布状況（資料：南九州市資料）令和4（2022）年現在
（「南九州市地域公共交通計画」より引用、一部加筆）



2-2-4. 観光

本市は、知覧地域中心部や国道 225 号線沿い、鉄道（ＪＲ指宿枕崎線）沿線に観光施設が分布しています。

川辺地域や顚娃地域には、キャンプ場や公園等の広大な自然を活かした施設が多く分布しており、知覧地域には重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「知覧武家屋敷庭園群」や、太平洋戦争中に陸軍の特攻基地が置かれた地として、「知覧特攻平和会館」等の歴史的観光資源が存在しています。

観光客入込数の推移をみると、平成 29（2017）年度から平成 30（2018）年度にかけては増加していますが、その後は新型コロナウイルス感染症の流行の影響等もあり、全体的に減少傾向となっています。

表 2-1 宿泊施設の現況

種 類	軒 数	部屋数					収容人員	
		総 数	和 室	洋 室	和洋室	その他	一般(人)	団 体
顚娃地域	4	21	21	0	0	0	107	-
知覧地域	10	88	59	29	0	0	210	23
川辺地域	6	181	16	91	0	74	560	-
合 計	20	290	96	120	0	74	877	-

資料：商工観光課

表 2-2 宿泊者数の推移（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
顚娃地域	6,643	6,039	6,768	7,644	6,729	3,684
知覧地域	12,073	10,630	11,057	10,118	9,680	5,593
川辺地域	10,890	10,497	13,432	15,725	20,948	15,034
合 計	29,606	27,166	31,257	33,487	37,357	24,311

資料：商工観光課

表 2-3 観光客入込数の推移（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
アグリランドえい	17,690	18,899	22,642	21,254	15,135	0
畑の郷 水土利館	14,014	13,577	12,230	2,614	2,353	1,044
知覧武家屋敷	163,924	125,457	144,085	162,496	118,006	41,328
知覧特攻平和会館	476,746	359,427	381,647	407,819	364,414	142,164
ミュージアム知覧	33,185	24,733	25,903	30,407	30,386	14,964
民間施設(知覧地域)	19,508	13,105	15,775	14,152	12,043	4,347
岩屋公園	100,200	103,800	96,700	126,000	87,500	70,500
オートキャンプ 森のかわなべ	585	558	1,004	5,129	3,580	3,398
合 計	825,852	659,556	699,986	769,871	633,417	277,745

資料：商工観光課

「統計南九州 令和 3 年度版」より引用



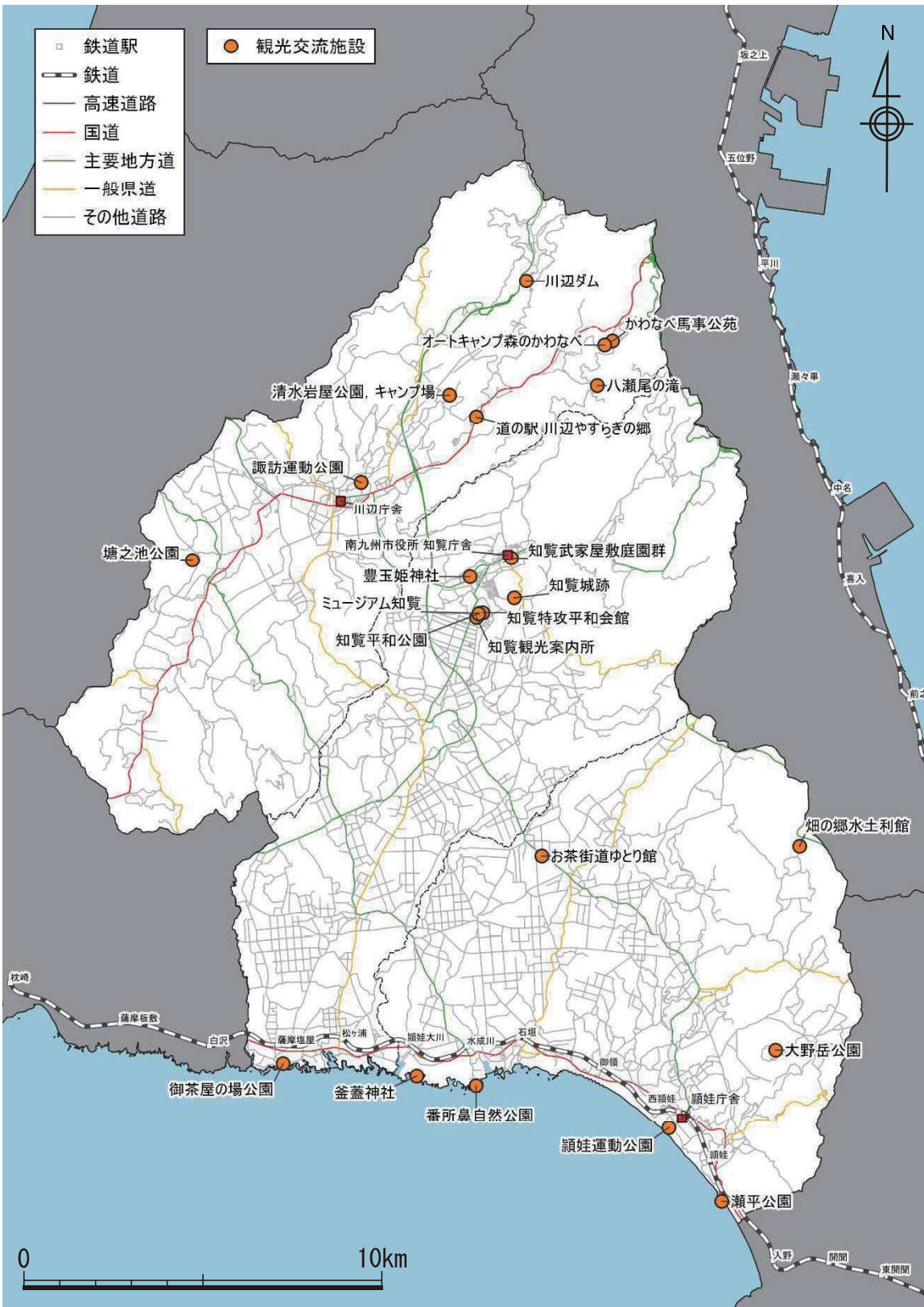


図2-11 主要な観光資源の分布状況（資料：南九州市資料）
（「南九州市地域公共交通計画」より引用、一部加筆）

2-2-5. 交通網

交通条件は、市の北西部に国道 225 号、南部には海岸線に沿うように国道 226 号が整備され、鹿児島市・枕崎市・指宿市を連絡する幹線道路となっています。また、鹿児島市との北東の市境沿いに、県道 17 号指宿鹿児島インター線（通称：指宿スカイライン）をはじめとする県道が、市内を縦横に通っています。さらに、平成 29（2017）年 3 月には地域高規格道路「南薩縦貫道」が全線開通し、九州自動車道・指宿スカイラインを経由してのアクセスが向上しました。

川辺地域の中心部の平山から、鹿児島市南部の谷山を結ぶ近世の街道「谷山街道」は、現在は鹿児島市と枕崎市を結ぶ国道 225 号として整備されています。川辺トンネルに代表されるように各地で改良が行われており、港町枕崎と県都鹿児島を結ぶ物流の動脈となっています。

鹿児島市から指宿市、本市の顚娃・知覧地域を経由して枕崎市に至る国道 226 号線は、物流だけでなく開聞岳をはじめとする景観に恵まれていることから、観光にも利用されています。

これらの国道に加え、鹿児島市と指宿市を結ぶ「指宿スカイライン」は指宿観光に利用されますが、本市には川辺・知覧・顚娃の各インターが所在するため、鹿児島市・指宿市間の途中に立ち寄る来訪者が多く見受けられます。また、鹿児島市南部の谷山インターから本市を縦断する「南薩縦貫道」が完成した事で、鹿児島市から本市へのアクセスがさらに容易となり、来訪者の増加や、物流の迅速化が期待されています。

鹿児島市と知覧を結ぶ県道が通過する手蓑峠は、「知覧茶発祥の地」として知られていますが、国道 225 号線の川辺峠とともに、見事なスギ・ヒノキの美林の山並みが続く景観でも知られています。本市の幹線道路は、自然環境の豊かさと、人々の営みを見て楽しむことができるルートとして、自家用車やレンタカーで訪れる来訪者を呼び込む地域資源として貴重なものといえます。

鉄道路線は JR 九州の鹿児島中央駅と枕崎駅を結ぶ指宿枕崎線があります。JR グループの路線として最南端にあり、通勤・通学その他、観光地である指宿市・枕崎市への移動にも利用されています。本市には「顚娃駅」「西顚娃駅」「御領駅」「石垣駅」「水成川駅」「顚娃大川駅」「松ヶ浦駅」「薩摩塩屋駅」が所在し、「西顚娃駅」を除き全て無人駅です。

かつては、鹿児島交通の鉄道路線である鹿児島交通知覧線が「阿多駅」（現在の南さつま市金峰町）から「知覧駅」を結んでいましたが、昭和 40（1965）年に廃止となりました。本市に所在した駅は、「田部田駅」「薩摩川辺駅」「野間駅」「東川辺駅」「小野駅」「城ヶ崎駅」「知覧駅」ですが、駅舎跡や線路跡等の当時をしのばせるものはあまり残っていません。

平成 21（2009）年から、南九州市ではコミュニティバスの「ひまわりバス」を運行しています。南九州市内の公共交通空白地帯や不便地域を解消するために、各地区の拠点を結ぶ「拠点間バス」と地域内のつういん・買い物・温泉施設等の日常生活に必要な行動を支援する「生活交通バス」の 2 種類があり、停留所以外でも乗客の希望により乗降が可能です。運賃は全区間均一で、乗車 1 回あたり高校生以上の大人が 100 円、小中学生が 50 円、未就学児や障がい者、65 歳以上の運転免許証自主返納者等は無料となっています。



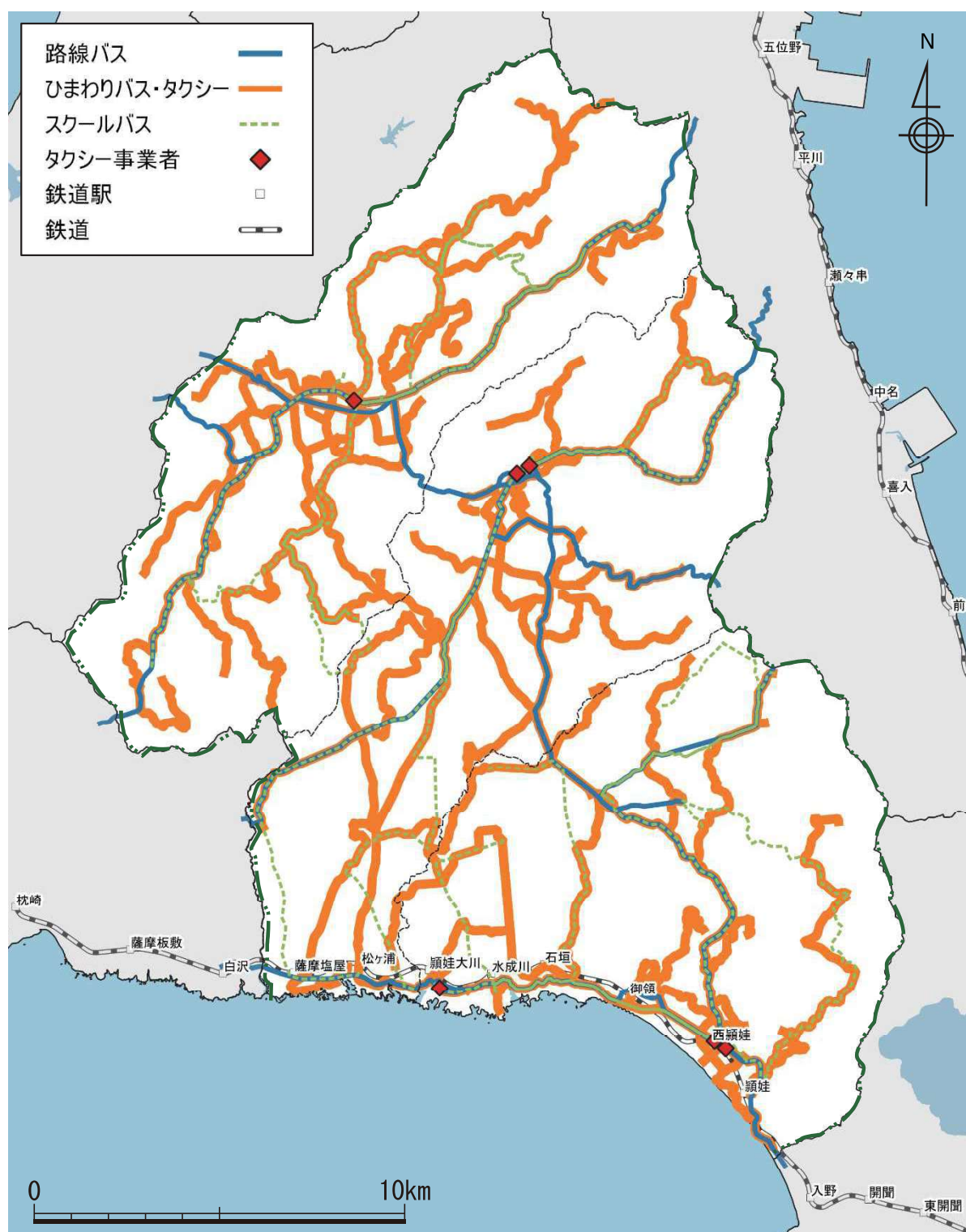


図2-12 南九州市の公共交通（「南九州市地域公共交通計画」より引用、一部加筆）



2-2-6. 自治組織

本市の各地域の基礎組織として、247の自治会（自治組織）があり、これらを中心に地域の自主的運営を行っています。自治会の規模は大小様々で、過疎化の影響により維持存続が厳しい自治会もあります。

現在、地区公民館（20館）を地域振興の拠点として活用するため、コミュニティープラットフォーム事業を順次開始しています。これは、地域コミュニティが自ら考え、実践するまちづくりや、身近な課題の解決、魅力づくりに取り組み、地域の活性化を図るものです。

2-2-7. 基幹産業

市の基幹産業は農業で、中でも「茶」と「さつまいも」は日本有数の産地となっています。

合併前は、旧町ごとに「^{えいちゃ}額娃茶」「^{ちらんちゃ}知覧茶」「^{かわなべちゃ}川辺茶」と茶のブランドを有していましたが、現在は「知覧茶」に銘柄を統一し、全国に知られています。サツマイモはデンプンの他、焼酎の原料として用いられていますが、数年前よりサツマイモ基腐病のまん延により、大きな打撃を受けています。

また、園芸作物、牛・豚・鶏等の畜産も盛んであり、食糧の供給基地として鹿児島県経済の一翼を担っています。さらに、国の伝統工芸品に指定されている「^{かわなべつだん}川辺仏壇」も基幹産業の一つで、職人の高齢化、後継者不足等の問題があるものの、その優れた技術を活かし、九州新幹線の内装に採用される等、新たな分野での発展が期待されています。

商業では、自動車の普及や幹線道路の整備によって利便性が向上した事で、市内の大型店舗や隣接する鹿児島市内の大型商業施設に客足が移り、商店街は活気を失う傾向にあります。しかし、伝統行事や新たなイベントの創出、Uターン・Iターンによる新規出店も見られます。企業誘致においては、食品加工製造業、社会福祉事業の進出等が見られます。

2-2-8. 公園・文化施設

額娃の海岸線に瀬平公園・番所鼻公園・戸柱公園があり、いずれも開聞岳（指宿市）と海岸線で形成される景勝の地として知られています。また、大野岳頂上の大野岳公園からは東シナ海、池田湖（指宿市）等の自然景観と、広大な茶畑を望む事ができます。

知覧地域には、フィールドミュージアム事業によって整備された4つのマザーパーク（拠点公園）と3つのポケットパーク（史跡小公園）があります。平和公園内には、フィールドミュージアムの中核であるミュージアム知覧と知覧特攻平和会館が所在しています。

川辺地域には、北部に清水岩屋公園、中部に諏訪運動公園、南部に^{ともいけ}塘之池公園があり、イベント開催や市民の憩いの場として活用されています。

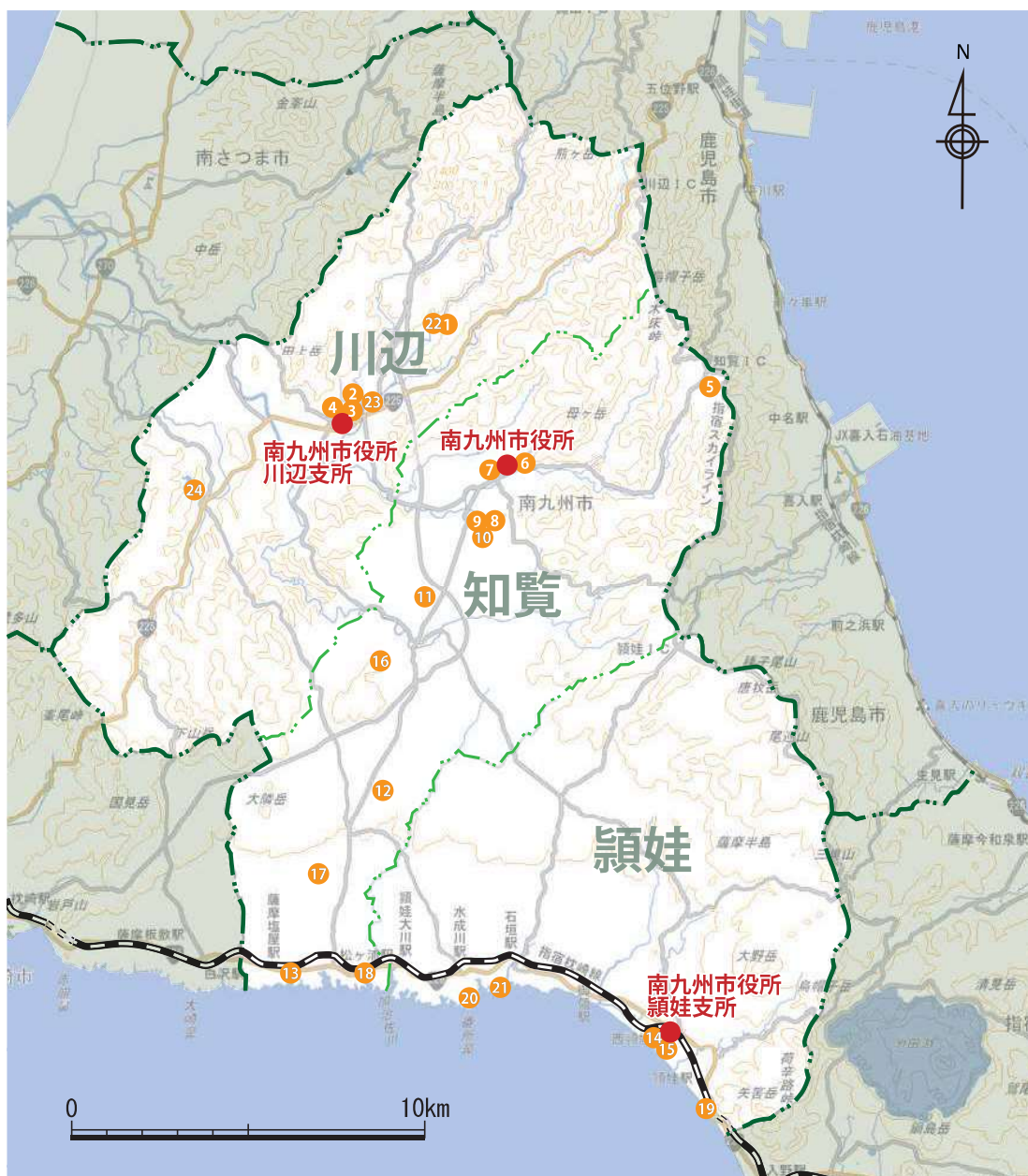


写真2-5 手蓑マザーパーク



写真2-6 霜出マザーパーク





- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 川辺町観光協会（齋藤彦松梵字資料室） | 12 総合案内（中南部拠点公園 松山マザーパーク） |
| 2 川辺郷土資料室 | 13 総合案内（南部拠点公園 南部マザーパーク） |
| （南九州市諏訪運動公園管理事務所） | 14 南九州市コミュニティセンター頴娃文化会館 |
| 3 南九州市市民交流センターひまわり館 | 15 頴娃図書館 |
| （川辺図書室） | 16 立山ポケットパーク |
| 4 コミュニティセンター川辺文化会館 | 17 菊永ポケットパーク |
| 5 総合案内（北部拠点公園 手蓑マザーパーク） | 18 聖ヶ浦ポケットパーク |
| 6 薩摩英国館（私立資料館） | 19 瀬平公園 |
| 7 知覧図書館（夢郷館） | 20 番所鼻公園 |
| 8 知覧特攻平和会館 | 21 戸柱公園 |
| 9 ミュージアム知覧 | 22 清水岩屋公園 |
| 10 南九州市コミュニティセンター知覧文化会館 | 23 諏訪運動公園 |
| 11 総合案内（中北部拠点公園 霜出マザーパーク） | 24 塘池公園 |

図2-13 南九州市の公園・文化施設（国土地理院地図に加筆）



2-3. 歴史的環境

2-3-1. 先史

旧石器時代

本市では旧石器時代の遺跡が発見されており、人々の営みが確認できます。

本市で発掘調査を行い、報告書を刊行した遺跡として「宮ノ上遺跡」(川辺町^{みやのうえいせき}神殿^{こうどの})、「背野平遺跡」(川辺町^{せのひらいせき}上山田^{かみやまだ})、「津フジ遺跡」(川辺町^{ついせき}下山田^{しもやまだ})、「九玉遺跡」(川辺町^{くだまいせき}永田^{ながた})、「登立遺跡」(知覧町^{のぼりたていせき}塩屋^{しおや})、「牧野遺跡」(知覧町^{まきのいせき}郡^{こおり})、「鞍曲遺跡」(知覧町^{かくすいじょうせきぐん}厚地^{くらまがりいせき})等があります。

宮ノ上遺跡では、角錐状石器群や小型ナイフ形石器群を中心として、約3万5千点の以上の遺物が出土しています。また、ここでは770個体を超える石器の接合資料が見つっています。

背野平遺跡では、2万数年前の炭を伴う炉の跡と推測される集石遺構が検出されています。登立遺跡では、阿多溶結凝灰岩の上層から瑪瑙・黒曜石製の細石刃・細石核、尖頭器、ナイフ形石器等の後期旧石器が出土しています。この他、石核、ハンマーストーン、パンチ、砥石状石器、礫器等も出土しています。中には熊本県阿蘇産と推測されるものがあり、人々の交流・活動範囲の広さが垣間見られます。

鞍曲遺跡では、剥片尖頭器やナイフ形石器、台形石器、抉入石器、石錐、二次加工剥片、石核等の多種の後期旧石器が出土しています。また、52基もの礫群や石器製作跡も検出されました。宮ノ上遺跡同様に、石器の接合資料が数多く得られており、石器製作の状況が少しずつ明らかになってきています。

縄文時代

本市を含む南九州では、他の地域比べて温暖な気候に恵まれたためか、草創期から早期にめざましい発達が見られます。この時代の遺跡の多くは台地上に位置しています。

出土した土器や石器の道具類から、この時期には、陸上動物、植物、魚・貝等の水産資源の利用という、縄文時代の基本的な食生活ができあがっていた事が分かります。

大隅海峡の硫黄島と竹島を含むカルデラを鬼界カルデラと呼びます。鬼界カルデラの一連の大噴火の際に、大規模火砕流が発生し、縄文時代早期の縄文人の生活に大打撃を与えたと考えられています。発掘調査の結果、本市では、鬼界カルデラの大爆発以前の遺跡が多く発見されています。

代表的なものとして、草創期では縄文ビーナスと呼ばれる岩偶や集石遺構が検出された「牧野遺跡」(知覧町郡)、土器・石器が出土した「登立遺跡」(知覧町塩屋)、早期では住居跡や集石遺構、磨製石槍・磨製石鏃が出土した「鷹爪野遺跡」(川辺町上山田)と集石炉跡が検出された「西垂水遺跡」(知覧町西元)、前期では石器埋納遺構が検出された「南田代遺跡」(川辺町永田)、後期では貯蔵穴が検出された「田中堀遺跡」(川辺町上山田)、晩期では「杵木馬場遺跡」(川辺町上山田)があります。

鹿児島県の縄文時代早期土器「石坂式土器」の標式遺跡である「石坂上遺跡」(知



写真2-7 鷹爪野遺跡出土品



覧町永里^{ながさと}）は、鹿児島県の考古学の基礎を築いた河口貞徳氏^{かわぐちさだのり}らによって、町内最初の学術調査が実施されました。調査を通じて、早期から前期にかけての土器の状況が明らかとなりました。また、石坂上遺跡からは、全国的に見ても古い時期の土製大型耳栓^{どせいおおがたじせん}2点が出土しています。

「永野遺跡」^{ながのいせき}（知覧町東別府^{ひがしべつぷ}）は縄文時代から古墳時代にわたる複合遺跡で、各時代において重要な遺物が出土し、特に早期から前期にかけての土器資料は、南九州における土器編年の貴重な資料となりました。

「北手牧遺跡」^{きたてまきいせき}（穎娃町上別府^{かみべつぷ}）は早期～中期の遺跡で、中期の層からは竪穴式住居のものと考えられる柱穴と集石3基、中期土器^{かすがしきどき}「春日式土器」の新しいタイプが出土し、前期土器^{ふかうらしきどき}「深浦式土器」との層位的関係が確認され、前期から中期にかけての土器の変遷が明らかとなりました。

前期以降の遺跡は、それ以前と比べて少ない印象がありますが、調査例が少ない低地や河川付近、水田等にまだ残されている可能性があります。

弥生時代

米作りが始まった弥生時代の遺跡では、「平瀬上遺跡」^{ひらせうえいせき}（穎娃町御領^{ごりょう}）、「堂山遺跡」^{どうやまいせき}（川辺町下山田^{ふるいちいせき}）、前期の竪穴式住居跡2軒が検出された「古市遺跡」^{ふるいちいせき}（川辺町永田^{てらやまいせき}）、中期では断面V字の溝状遺構2条が検出された「寺山遺跡」^{てらやまいせき}（川辺町永田）、後期では集落跡や土壇墓^{どうぞのいせき}が検出された「堂園遺跡」^{どうぞのいせき}（川辺町神殿）が代表的な遺跡です。

「古市遺跡」は、弥生時代の全時期の土器を始め、石鏃^{せきぞく}や石斧^{せきふ}、石包丁等の各種石器も出土しており、集落は古墳時代から中世にかけて断続的に形成されていた事が分かっています。

「寺山遺跡」は、万之瀬川を前方に望む台地の先端に位置します。上記の溝状遺構は、この時期以降、関東から西日本にかけて各地で築造される環濠集落の環濠である可能性があります。また、出土遺物の中には北部九州産の丹塗り土器等も含まれており、当該地域と遠隔地との交流の一端がうかがえます。

これまで出土している弥生時代の遺跡は、河川流域の台地が多く、稲作にあまり適さなかった地形の関係からか、縄文時代や古墳時代と比べて見つかった遺跡の数が少ない傾向があります。縄文時代の遺跡同様に、調査が進んでいない低地や河川付近、水田等に、弥生時代の遺跡が残存している可能性があります。



写真2－8 寺山遺跡溝状遺構

古墳時代

南九州市内では、墳丘を有する古墳や南九州独特の地下式横穴墓等は検出されていません。「塘池上遺跡」^{ともいけうえいせき}（川辺町下山田）では、壺を重ねた埋葬遺構と思われるものが検出されています。隣接する「答石遺跡」^{こてしいせき}（川辺町下山田）は、大谷川を眼下に望むシラス台地の北端近くに形成されています。検出した断面V字の溝状遺構は、本来幅3.5m、深さ2m以上あつ

